

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第4問 (20点)

TOC製作所では、標準原価計算制度を採用しており、製品Gの製造・販売を行っている。なお、原価差異は当月の売上原価に賦課することとし、以下の[資料]にもとづき、答案用紙に示されている各金額を求めなさい。

[資料]

1. 製品G標準原価カード

主要材料A	130円/kg	×	5.0kg	=	650円
直接労務費	2,100円/時間	×	0.4時間	=	840円
製造間接費	?円/時間	×	?時間	=	?円
			原価標準		<u>?円</u>

2. 当月における生産データ

前月より繰越されてきた仕掛品が1,500個、当月投入 ? 個、月末における仕掛品が2,000個であり、月末仕掛品の加工進捗度は、月初仕掛品より30%遅れている。

3. 費目別実際原価および消費実績データ

費目	実際原価	消費実績
主要材料A	7,886,200円	60,200kg
直接労務費	9,361,650円	4,490時間
製造間接費	10,202,465円	?

4. 当月における原価差異 (一部)

材料数量差異 26,000円 (不利差異)
 作業時間差異 63,000円 (不利差異)
 操業度差異 13,650円 (不利差異)

5. 月次損益計算書 (営業利益まで)

I. 売上高	34,500,000円
II. 売上原価	<u>?円</u>
売上総利益	?円
III. 販売費及び一般管理費	<u>5,527,618円</u>
営業利益	?円

6. その他の資料

- 製造間接費年間予算は122,850,000円 (固定費率1,365円/時間)、年間基準操業度 ? 時間である。なお、直接作業時間を配賦基準としている。
- 当製作所では、製造間接費を公式法変動予算により設定しており、能率差異は標準配賦率によって把握している。
- 当月の製品販売単価は ? 円/個、製品販売量は ? 個、月初・月末の製品在庫はそれぞれ3,000個である。

